

新任教員インタビュー

今年度人文社会科学部に着任した2名の教員に、人文社会科学部のことや学生へのメッセージなどいろいろ聞いてみました!

- ①先生の専門分野について教えてください ②人文社会科学部の学生の印象は?
③学生にメッセージをお願いします ④先生の出身地と、自由にひとことお願いします



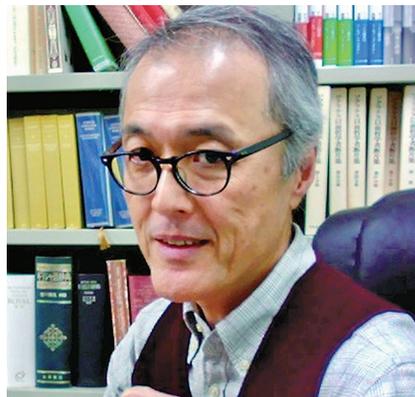
経済・マネジメントコース 准教授
かね こ よしひさ
兼子 良久 (マーケティング)

①マーケティングを専門にしています。マーケティング分野の中でも、私が主なテーマとしているのは「価格」です。様々な商品やサービス間で、価格競争が頻繁に起こっています。過度の値下げや値引きは利益を大きく損失してしまうので、いかに価格競争を回避するかがビジネス上では重要になります。消費者の価格に対する意識や心理の視点から、企業が価格競争を回避する方法を中心に研究しています。

②もちろん、一人一人個性があると思いますが、授業に真摯に取り組む学生が多いという印象は受けました。教える側としても、とても良い環境で仕事をさせてもらっていると思います。

③大学生の特権は、学業はもちろん、サークル、旅行など、様々な事を経験できる多くの自由な時間があることです。興味を持ったことには積極的に挑戦してみてください。また、社会に出ると正解のない課題に直面することが多いと思うので、どのような課題に対しても自分なりに考えて自分なりの解答を導き出す能力を、大学時代に身につけておいて欲しいと思っています。

④生まれは東京ですが、父親の仕事の関係で、小学校を卒業するまでは宮城県石巻市に住んでいました。そのため、東北の地にはとても愛着があります。大学院を出た後は、東京の広告代理店に入社しました。忙しい業界でしたから、寝るために自宅に帰るか、会社に泊まるかといった生活でしたが、上司や先輩・後輩にも恵まれ充実した日々を過ごしました。現在でも、そこで教えられた事が、仕事に対する考え方や仕事の仕方のベースになっています。



人間文化コース 教授
かとう けんじ
加藤 健司 (比較文学)

①最近是比较文学という、わかるようなわからないような分野の勉強をしています。もともとは近代ドイツ文学、とくに18世紀のヴィーラントというあまり日本では知られていない作家の作品を中心に読んできました。翻訳にもたいへん興味があります。

②まじめでおとなしい、という感じでしょうか。とはいえ、ほとんど教室でしかお会いしていないわけですから、それもおそらくは学生さんたちの本当の姿のごくごく一面でしょうけど(笑)。

③比較文学というのは、結局のところ、いま私たちが立っている日本語・日本文化を基本として、他者と自己を、人間というものを理解していこう、というような勉強だと思っています。ちゃんと日本語を知り、日本文化を知り、日本文学を知り、そして他の文化を支える言語と文学を勉強する、それが授業での目標です。あくまでも目標ですけど。

まあ、愉しく本を読んでいきましょう。

④埼玉出身で、富山で20年ほど過ごしたのち、2010年に山形大に赴任して、地域教育文化学部の異文化交流コースというところにいました。というわけで、純粋な「新任」でもないのですが、人文社会科学部の授業ははじめて担当させていただきますので、まあ新任です。宜しく願いいたします。

最近の趣味はなんといってもボクシングジム通いです。なわとび、シャドーボクシング、ミット打ち、サンドバッグ、ときにはスパーリング、いい汗かけますよ。